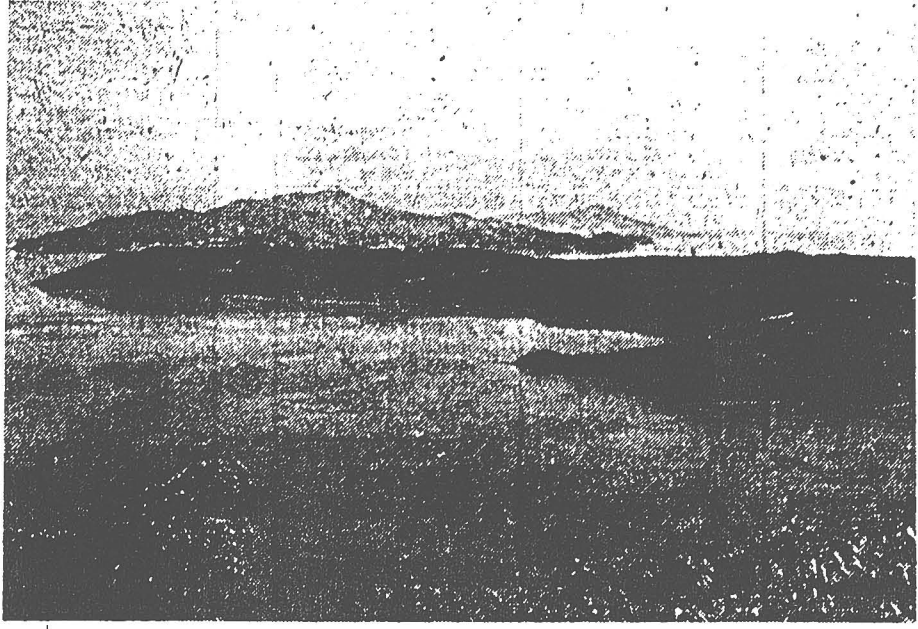


鹿兒島出水郡東町の場合

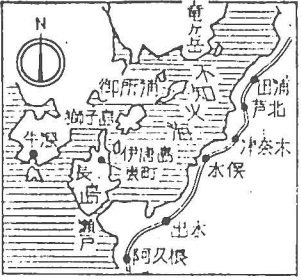
鹿兒島出水郡東町の場合

不知火瀬岸の程、昔有機水銀汚染のひろがり、津波を一枚々々はくように閉らかになつていきつた。汚染源の水俣・チツソを、ぐるりと取り対岸の島々でも、住民たちはいま、十五年前の島一揆(き)の記憶をまざまざと見ながら、新たな不安をかきたてられている。汚染は一体どこまでひろがっていたのか、対岸の地(し)も、長尾を歩いてみた。

タブーの中の不安
水俣から半歩行きの船で四十島は、出水郡出水町東町の一部。最初の汚染船が獅子島を航行したが、回界というより船本とい



環状に不知火海を囲む島々。ここにも有機水銀汚染が…。(手前伊勢島、その向こう獅子島、さらにその向こうが御所浦島=長島・針尾公園から)



(へぐし) 際だ。天鼓・御所浦 ったはちがよいくらい、経済的にとほすとろり合わせにあるの、暮らしのうさでも、船本と深も船かるばかり。みんな水俣です。船本に入つたはちがよか小形貸し切り船の船長が笑つた。人口三千人足らずの島は、典型的な漁業の町。駐在所もなく、車

確かにあった汚染

だがここにも隠された歴史

同じ生活圏 もう騒ぎたくない

も教えるほどじゃない、平和そのもの島だ。なすねた日、幣中小学校の講堂で、にぎやかに若者が集まっていた。しよちめをくみかかし、三昧、大鼓に合わせ

が実施した有機水銀検査のこと。もよく覚えていた。「この部活に十人くらい、誰か人のおらずで、只をカマスで二三杯の水俣の会社で働いてたこともあつた。あつた。あつた。あつた。あつた。」

この町の歴史は、カツオ漁の生きた。その合間に、延々ナウヤ一本釣りの行な。最近では、ハマチの養殖も盛ん。島の中心は、阿久根、川内沖へ出漁する。高き二層以上、横が四層もある巨

気が持たぬのはなかな「昨日の病けた顔に、一まつ不安が走つた。」

髪から水銀 地帯を見るときわかるが、不知火海は天鼓諸島、獅子島、伊勢島、長尾などくると開かれ、南の漁民が手製水銀を供給した。この町からは十五人以上、長尾新社の森田八社長(心)は「これまでもなんでもなかった。累や町の行儀勢は問題だ。十五年間に比べると、状況ははるかに有利だ。島はほんの二、三倍の不安を期待をもつて見守つてい

「あれは何年じやたらあつたか。今余したこのありまです。妙なモノ物の、はちとととと。あ、とほいよたわんば」と。出つたかと思つたりしたが、中いピンピンと鳴るけど、御所浦で出た、牛乳を出たといわれると、事実、三十四年当時、水俣の奇

「世話になつた梅戸の人たちが何人もいれて、気の毒だ。死魚が流れてきたりして、それが距離が遠いところだ、それだけの切実感はなかつた。いまも若者の不安はあるが、同様に、チツソがメになれぬ。わねわね市場を失つたことになる」と。

多し精進のナツ ここでもタブー扱され、メをさされた水俣病だが、汚染はたいしたこともなかつたのだ。水俣が大層死んだといわれる獅子島、伊勢島、長尾の宮之浦などの漁業集落では、不思議に精進が多いという。町民の側へでは、町内に三人の精進児がいるがその多くが獅子島伊勢島に集中している。波、漁家の庭先でほんやりすり込んでいた子玉、越の子。その子が患患な胎児性水俣病の子の姿をアツツ。

「たしかに強力の佃い子供が多いのは事実。だが私には近親縁のせいでとめていた。水俣病との関連は、医学的に調べてみないとなんとも言えない」と。水俣病が死に、手製水銀も汚かつた。この町でも有機水銀汚染は確実にあつた。十五年におよぶ長い、長い隠された歴史。しかも、いまやく鹿島島は十七月早々にも、東町を含む出水郡四千人住民の検査を始めることになっている。

長尾新社の森田八社長(心)は「これまでもなんでもなかった。累や町の行儀勢は問題だ。十五年間に比べると、状況ははるかに有利だ。島はほんの二、三倍の不安を期待をもつて見守つてい。医学的調査をすすめ、滞在者がおれば、一日も早く汚染を」と訴えていた。

(平山記者)